

## 研 究

# 父親の抑うつ傾向と就学前の子どもの 社会情緒的発達との関連

—父親の育児参加に着目して—

岐 部 智恵子

## 〔論文要旨〕

本研究は、父親の抑うつ傾向が子どもの社会情緒的発達にどのように関連するかについて、父親の育児参加を軸として検討することを目的とした。就学前（3～5歳）の子どもをもつ父親と母親に調査を行い、両親から回答の得られた565家庭を分析対象とした。父親の抑うつ傾向が育児参加を介して家族内関係性や母親の抑うつと関連し、それらが子どもの社会情緒的発達に至るモデルを仮定しパス解析を行った。結果から、父親の抑うつ傾向の高さは育児参加の低さと関連し、父子関係と夫婦関係の質の低さや母親の抑うつの高さを介して、子どもの社会情緒的問題傾向に関連することが示された。

Key words : 父親抑うつ傾向, 育児参加, 夫婦関係, 就学前, 社会情緒的発達

## I. 問題と目的

近年、父親を対象とした研究が増加し、母親だけでなく父親の産後うつに関する研究も報告されている<sup>1)</sup>。父親も配偶者の妊娠・出産期には抑うつに対するリスクが高まり<sup>2)</sup>、周産期における父親の抑うつ<sup>3)</sup>の罹患率は10.4%であるという報告<sup>3)</sup>がある。また、父親に特化したデータではないものの、子育て世代に該当する20～40代の男性の死因の第1位が自殺であり<sup>4)</sup>、その4割以上が抑うつを背景理由としているという統計もある<sup>5)</sup>。さらに、先行研究からは、父親と母親の抑うつは相互影響性を持つこと<sup>6,7)</sup>、父親の抑うつは養育態度に影響を及ぼし<sup>8)</sup>、虐待と関連すること<sup>9)</sup>も報告されている。遺伝疫学的観点から行われたメタ分析研究では「うつ病は家族の病理である」と指摘され<sup>10)</sup>、親の抑うつ傾向の高さは遺伝的にも養育環境的にも子どもの発達の危険要因となることが指摘さ

れている<sup>11)</sup>。このように抑うつは本人の個人的社会的機能に支障を来すだけでなく、その家族にとっても負担や影響が大きい精神疾患であり、父親の抑うつは家族の文脈において要因やメカニズムの同定を含めた検討を必要とする重要な課題である。

父親の抑うつを家族の文脈で検討するうえで、養育行動を中心にした家族成員間の相互相乗作用（トランザクション）モデル<sup>12)</sup>が援用できよう（図1）。本モデルでは養育行動は親本人の成育歴を含む個人的要因に加え、夫婦関係や仕事など家庭や社会的要因などによって規定される。日本でも父親の養育行動が心理社会的要因（e.g. 子に対する認知、親役割観、夫婦関係、労働環境）によって影響されるという実証報告がある<sup>13,14)</sup>。このモデルを援用すると、父親の抑うつ傾向の高さは、父親の養育行動を抑制する心理的個人要因として機能することが予想される。これまで父親の抑うつ研究に先行して多くの知見を得ている母親の抑うつ

The Association of Paternal Depressive Symptoms and Preschoolers' Socioemotional Development

[2792]

— Investigation through Paternal Involvement in Child Rearing —

受付 15.12. 7

Chieko KIBE

採用 16. 7.21

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科（研究職）

別刷請求先：岐部智恵子 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

Tel/Fax : 03-5978-5261

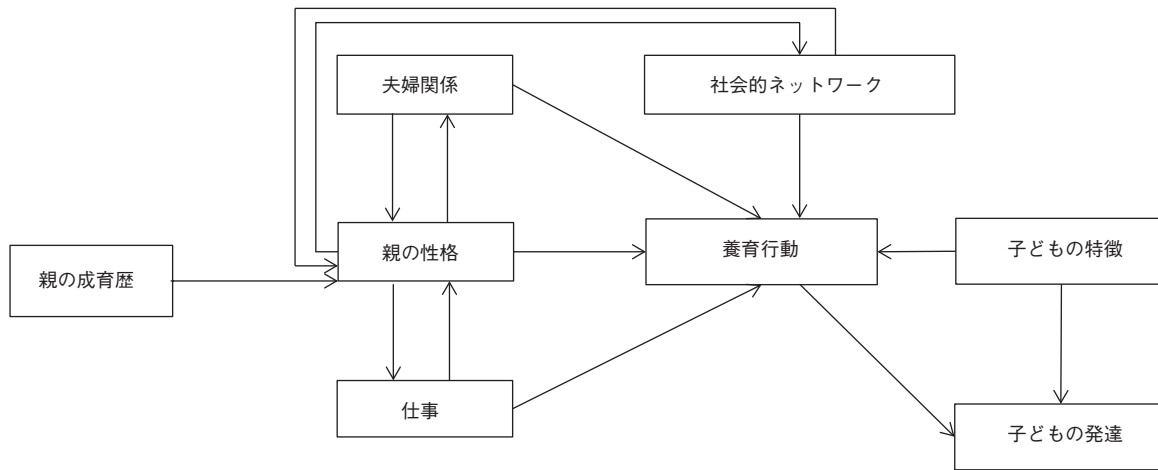


図1 トランザクションモデル<sup>12)</sup>

つの先行研究では、母親の抑うつの高さは授乳や寝かしつけ<sup>15)</sup>、遊び場面<sup>16)</sup>における子どもへのポジティブな養育行為を減少させるという報告がある。抑うつ傾向の高い母親はそうでない母親と比較して子どものニーズに対する敏感性や応答性に乏しく、批判的、高圧的、または拒絶、回避的であるという<sup>17)</sup>。父親の抑うつ傾向が高い場合にも、父親によるネガティブな養育行動や父子間の触れ合いの低さと関連し<sup>8,9)</sup>、父子関係の質や子どもの発達に負の影響を持つことが予想される。さらに、父親の家庭への支持的関与が低い場合は、夫婦関係の質や母親の精神的健康とそれぞれネガティブな関連を持つ<sup>18,19)</sup>ことが想定される。Jacobら<sup>20)</sup>は、母親の抑うつが夫婦関係や家族機能の低さを媒介して子どもに伝達する点を指摘し、抑うつ世代間伝達のメカニズムの一端として説明している。父親の抑うつも夫婦関係の質の低さ、配偶者の抑うつ傾向の高さと関連し<sup>21)</sup>、先行研究が指摘するようにそれらを媒介して子どものネガティブな発達に関連するメカニズムが想定される。近年、家庭における父親の役割が大きく変容する中、父親の抑うつを家庭の文脈から実証的に検討する必要がある。そこで、本研究では父親の抑うつが家族内要因との関連を検討することを目的とし、父親の抑うつが育児参加と父子関係、夫婦関係と母親の抑うつ、子どもの社会情緒的発達にどのように関連するか、発達段階において親からの影響が大きい就学前の子どもに焦点を当て調査研究を行った。

## II. 方法

### 1. 調査対象者と手続き

首都圏の幼稚園に通う子ども（年少児と年長児）の保護者を対象に、自己回答式質問紙による調査を実施

した。調査時期は2013年7～9月、25園の幼稚園に調査協力を依頼し、13園から賛同を得た。それら協力園を通して年少および年長クラスの在園児の家庭（1,975）に質問紙の配布と回収を行った。父親用、母親用質問紙のそれぞれの表紙に調査への参加は任意であり不参加により不利益を被らないことを明記した。それらの説明を読んだうえで質問に回答をしたことをもって、本研究への参加に同意が得られたとみなした。634家庭が調査に参加し、両親ともに回答した565家庭（年少309家庭、年長256家庭）のデータを最終分析に使用した。本研究は、お茶の水女子大学倫理審査委員会の審査・承認を受けて実施された。

### 2. 調査内容

#### 1) 調査参加者の属性

父親と母親の学歴、就労形態について尋ね、大卒とそれ以外、有職とそれ以外のカテゴリー変数に2値化して分析に含めた。

#### 2) 子どもの気質

子どもの気質はその後の発達に影響する重要な要因である。本研究では、子どもの気質について Behavioral Style Questionnaire (BSQ)<sup>22,23)</sup>を用いて母親から回答を得た。BSQは3～7歳の子どもを対象とした気質尺度であり、本研究では4つの下位因子（気分、規則性、順応性、接近/回避）について6件法で質問し、合計得点の高い方が負の情動性の高さを表すようにスコアリングした。本研究における尺度の内的整合性を示す Chronbach の信頼係数は  $\alpha = .86$  であった。

#### 3) 子どもの社会情緒的問題傾向

子どもの発達について Strength and Difficulty Questionnaire (SDQ)<sup>24,25)</sup>を用いて母親から回答を

得た。SDQは5つの下位尺度(情緒, 行為, 多動, 仲間関係, 向社会性)を3件法で測定する心理尺度であるが, 本研究では向社会性を除く4つの下位因子得点を合計し, 合計得点の高い方が社会情緒的問題傾向の高さを表すように変数化している。本尺度の信頼係数は $\alpha = .75$ であった。

#### 4) 父親と母親の抑うつ傾向

自己回答式質問紙により, 両親の抑うつ傾向について Kessler 6 (K6)<sup>26, 27)</sup>を用いて回答を求めた。K6は項目反応理論に基づき開発された Kessler10の短縮版である<sup>28)</sup>。5件法を用い6項目について質問し合計得点が高い方が抑うつ傾向の高さを表すようにスコアリングされた。本研究の対象集団における本尺度の信頼係数はそれぞれ $\alpha = .86$ (母親),  $\alpha = .88$ (父親)であった。

#### 5) 夫婦関係

父親の抑うつが夫婦関係にどのように関連するか検討するために, 妻が認知する夫婦関係について Golombok Rust Inventory of Marital State (GRIMS)<sup>29)</sup>を用いて回答を得た。標準化された日本語版が確認されなかったため複数のバイリンガル研究者の協力を得て, バックトランスレーション手続きを経て翻訳された7項目(5件法)で夫婦関係を測定した。具体的な項目は「配偶者は私の要求にたいして敏感で, わかってくれる」, 「言い争いをしてもすぐに仲直りができる」などであった。得点の高い方が夫婦関係の質の高さを表すよう変数化した。探索的因子分析の結果, 原版と同様の一因子構造を確認している。尺度の信頼係数は $\alpha = .87$ であった。

#### 6) 父子関係

父子関係は Child-Parent Relationship Scale (CPRS)<sup>30, 31)</sup>を使用した。バックトランスレーション手続きに従い CPRS 日本語版を作成し, 因子構造を確認した結果, 原版と同様に父子関係の「親密さ」と「衝突」を表す二つの下位尺度が見い出された。具体的な項目は「(子どもは)自分自身について何かあればすぐに私に教えてくれる」, 「子どもとつき合っていると, とても疲れてしまう(逆転項目)」などであった。合計得点の高い方が父子関係の質の高さを表すよう変数化を行った。なお, 本尺度の信頼係数は $\alpha = .73$ であった。

#### 7) 父親の育児参加

父親の抑うつと育児参加の関連について検討するた

めに, 「1週間のうち子どもと過ごす時間」, 「子どもと遊ぶ頻度」や「子どもの世話をする頻度」の3項目について5件法で回答を求めた。主成分分析により重みづけをし, 合成得点を算出した。

#### 8) 統制変数と分析方法

本研究では子どもの性別, 学年, 父親と母親の学歴と就労を属性変数として統制した。また, 先行研究から親の精神的健康に関連が大きいと報告されている子どもの気質(負の情動性)<sup>32)</sup>についても統制変数として扱った。本研究の分析においては SPSS (ver. 21) 並びに Amos を用い, 有意水準を $\alpha = .05$ として解析を行った。

### Ⅲ. 結 果

#### 1. 記述統計

本研究の主要変数の記述統計を子どもの年齢別に表1に示す。年少児と年長児において差が認められたのは「子どもの気質(負の情動性の高さ)」, 「子どもの社会情緒的問題傾向」であり, 年少児をもつ母親の方が子どもの困難さを強く評定する結果になった。これは, 概して小さい時の方が手がかかるといった, 子どもの発達の様子と母親の認知を反映した結果であると考えられる。また, 年少児の方が父親の育児参加が高かったが, 子どもが小さい時は育児に人手が必要であるなどの背景が影響していると考えられる。

次に, 主要変数間の関係を概観するための2変数間の相関表を示す(表2-1, 2-2)。結果から, 年少児の父親の抑うつ傾向は「育児参加の度合い」, 「父子関係」や「夫婦関係の質」に負の関連, 「母親の抑うつ」と正の関連を示したが, 「子どもの社会情緒的問題傾向」とは統計的に有意な関連が示されなかった。一方, 年長児の父親の抑うつ傾向は「育児参加の度合い」に有意な相関がみられなかったものの, 「父子関係」や「夫婦関係の質」に負の関連を持ち, 「母親の抑うつ」と「子どもの社会情緒的問題傾向」との間に正の相関を持つことが示唆された。

#### 2. 父親の抑うつ傾向と子どもの社会情緒的発達との関連

父親の抑うつ傾向と子どもの社会情緒的問題傾向の関連を父親の育児参加を軸としてパス解析で検討した結果, 主に三つの経路が示された(図2)。まず, 父親の抑うつの高さが父子関係の質の低さと関連し, 父子関係の質の低さが子どもの社会情緒的問題傾向に

表1 主要変数の記述統計

	年少児				年長児				$\chi^2$	<i>t</i>	<i>d</i>
	Mean	SD	度数	%	Mean	SD	度数	%			
子ども性別											
男児			154	50			131	52	0.26	<i>n.s.</i>	
女児			155	50			121	48			
母親就労											
就労			54	20			48	31	0.30	<i>n.s.</i>	
無職			215	80			169	69			
母親の抑うつ	10.31	4.27			10.25	3.94				0.16	<i>n.s.</i>
子ども気質 <sup>a</sup>	3.31	0.50			3.22	0.53				2.08*	0.19
父親の抑うつ	9.83	4.00			9.81	4.31				0.04	<i>n.s.</i>
父親の育児参加 <sup>b</sup>	0.16	1.00			-.187	0.97				4.16**	0.35
父子関係	8.17	0.89			8.13	0.84				0.54	<i>n.s.</i>
夫婦関係	3.83	0.75			3.84	0.77				-0.24	<i>n.s.</i>
子どもの社会情緒的問題傾向	5.99	0.96			5.78	0.99				2.47*	0.22

<sup>a</sup>子ども気質：負の情動性の高さ

<sup>b</sup>父親の育児参加：父子の時間、遊びや世話の頻度の合成得点

\**p* < .05, \*\**p* < .01

表2-1 主要変数間の相関（年少児）

	父親の抑うつ	育児参加の 度合い	父子関係	夫婦関係の質	母親の抑うつ	子どもの社会 情緒的問題傾向
父親の抑うつ						
育児参加の度合い	-.168**					
父子関係	-.429***	.166**				
夫婦関係の質	-.246***	.257***	.172**			
母親の抑うつ	.249***	-.109	-.301***	-.402***		
子どもの社会情緒的問題傾向	.020	-.079	-.256***	-.195***	.262***	

\**p* < .05, \*\**p* < .01, \*\*\**p* < .001

表2-2 主要変数間の相関（年長児）

	父親の抑うつ	育児参加の 度合い	父子関係	夫婦関係の質	母親の抑うつ	子どもの社会 情緒的問題傾向
父親の抑うつ						
育児参加の度合い	-.063					
父子関係	-.361***	.219**				
夫婦関係の質	-.331***	.139**	.267***			
母親の抑うつ	.225***	-.066	-.143*	-.500***		
子どもの社会情緒的問題傾向	.161*	-.078	-.157*	-.334***	.284***	

\**p* < .05, \*\**p* < .01, \*\*\**p* < .001

関連するという父子関係の媒介経路が確認された。次に、父親の抑うつは母親の抑うつ傾向の高さと関連し、母親の抑うつが子どもの社会情緒的問題傾向と関連する経路が示された。これらは先行研究の知見を支持する結果であった。加えて、育児参加を軸とした検討経路では、抑うつの高さが育児参加の低さと関連し、さらに父子関係の質の低さや夫婦関係の質の低さを媒介して子どもの社会情緒的問題傾向に関連していくとい

う結果が示された。また、この経路では夫婦関係の質の低さが母親の抑うつの高さとも関連し、子どもの社会情緒的問題傾向に至ることも示唆され、父親の抑うつが多様な経路を通して子どもの社会情緒的問題傾向に関連することが確認された。なお、Amosを用いた分析から、本研究のモデルの適合度（ $\chi^2_{(24)} = 30.17$ , *p* = .18, CFI = .99, RMSEA = .02）が良好であることが確認されている。

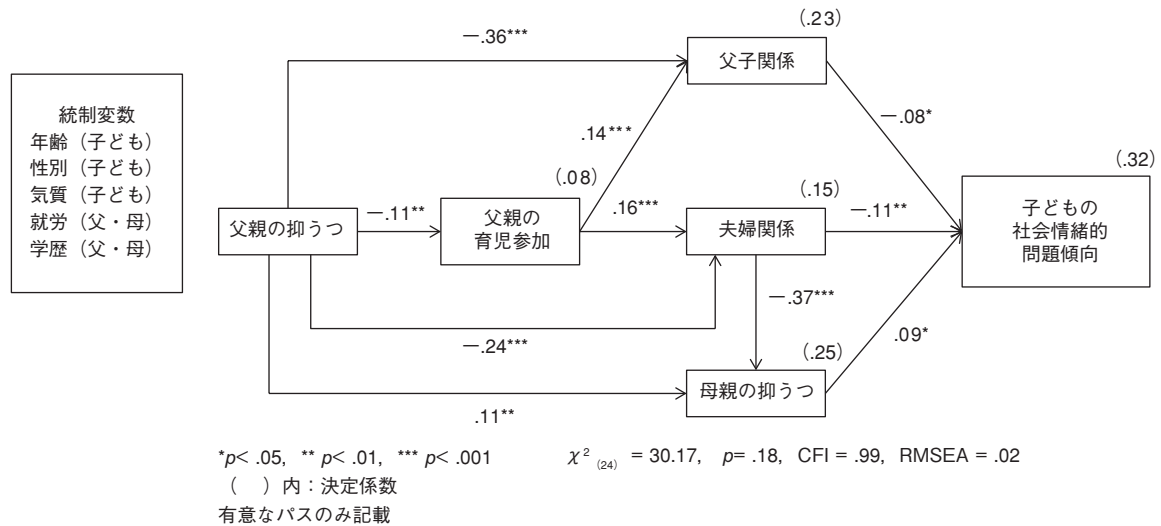


図2 父親抑うつの家庭内要因との関連

#### IV. 考 察

本研究の結果、父親の抑うつ傾向の高さは育児参加の低さとの関連が示されたことから、育児参加を促進するためには父親のメンタルヘルスも考慮する必要性があると考えられる。これまで家族社会学や家族心理学などの領域から、父親の育児行動に影響する要因に関して多くの知見を得てきたが、それらに加え、父親自身の抑うつ傾向など精神保健的観点からの研究がより多く行われる必要性が本実証研究から明らかになったといえよう。また、育児参加には時間や頻度といった量的側面のみならず、関わり方や態度などの質的側面を考慮することも重要である。父親の抑うつと養育態度を扱った28の研究のメタ分析を行った Wilson ら<sup>8)</sup>は、父親の抑うつはネガティブな養育態度 (e.g. 高圧的、敵対的、回避的、拒絶的、一貫性のなさ) を増加させる一方で、ポジティブな養育態度 (e.g. 愛情深く温かい、支持的、子どものニーズに敏感、受容的) を有意に減少させると報告している。さらに、抑うつ傾向が高い母親がいる家庭で、育児参加をする父親の抑うつ傾向も高い場合には、母親から子どもへの抑うつが持つ負の影響を増加させると指摘する先行研究もある<sup>33)</sup>。本研究でも、父親の抑うつ傾向は父子関係や夫婦関係、母親のメンタルヘルスを媒介して、子どもの社会情緒的問題傾向に関連することが示唆されたことから、先行研究を支持する結果が示唆されているといえるだろう。これらの結果を踏まえると、育児参加の規定因子としてだけではなく、家族のウェルビーイングを考えるうえでも父親自身のメンタルヘルスが重要

であることが確認されたといえよう。

一方、家庭関与の低さが指摘されている日本の父親であるが、育児参加の度合いが高い場合には父子関係や夫婦関係にポジティブな関連を持つことが結果から示された。特に、良好な夫婦関係は母親のメンタルヘルス問題と子どもの社会情緒的問題傾向を緩和する役割を持つ可能性が示唆される結果となった。父親、母親、子どもの各構成員を家族ユニットの中で捉える包括的な視点の重要性が改めて確認されたと考えられる。先行研究からは、親の愛情を基盤とした家庭の雰囲気や家族のまとまりなどが、子どもの抑うつ傾向を抑制し、児童期のメンタルヘルスに好影響を与えることも報告されている<sup>34)</sup>。発達精神病理学的観点から行われた長期縦断研究では、乳幼児期に同じようにリスク要因 (e.g. 難しい気質) をもった子どもでも、父親の良質な養育、夫婦間の信頼感や愛情が存在する環境に育った場合、リスク要因が問題行動として顕在化するのを防御するという知見を得ている<sup>35)</sup>。本研究では子どもの発達早期における養育環境として父親のメンタルヘルスを考慮する意義が確認され、子どもの社会情緒的発達を促進するために父親が果たす役割が実証的に示唆されたといえよう。

#### V. 本研究の限界と今後の展望

本研究ではこれまであまり検討されてこなかった父親の抑うつを家族の文脈から研究し、育児参加の規定要因や家族のウェルビーイングに関する要因として知見を提供できた一定の意義があるだろう。一方で、本研究の限界点も述べ、今後の研究の展望としたい。ま

ず、本研究は横断デザインであったため、要因間の因果関係については推定できていない。今後は縦断デザインによる研究によって因果を同定していく必要がある。また、本研究では父親の抑うつ傾向の高さを育児参加の抑制要因として検討したが、今後は、父親の抑うつ傾向を高める先行要因が何か、前述の就労環境などの心理社会的変数も含めて検討をしていく必要がある。また、子どもの数や兄弟の有無も育児に関わる重要な変数であるため、今後検討が必要である。なお、抑うつについては父親の自己評定で、臨床的な診断を含むものではない。今後は抑うつ傾向の高低群による比較検討を行うなど、父親の抑うつがもたらす影響をより詳細に検討していく必要があるだろう。

本研究は平成25・26年度お茶の水女子大学大学院生研究補助金を受けたものです。また、本研究の一部は平成25年度日本発達心理学会、平成26年度日本教育心理学会において報告を行いました。

利益相反に関する開示事項はありません。

#### 文 献

- 1) 竹原健二, 須藤茉衣子. 父親の産後うつ. 小児保健研究 2012 ; 71 : 343-349.
- 2) 萩野聡子, 村瀬聡美. 子育てにおける父親の抑うつ. 村瀬聡美・我部山キヨ子編. 基礎助産学 母子の心理・社会学. 第4版. 東京: 医学書院, 2014 : 136-137.
- 3) Paulson JF, Bazemore SD. Prenatal and postpartum depression in fathers and its association with maternal depression : a meta-analysis. JAMA Journal of the American Medical Association 2010 ; 303 : 1961-1969.
- 4) 厚生労働省. 厚生労働白書. 2014.
- 5) 内閣府. 平成27年版自殺対策白書. 2015.
- 6) 安藤智子. 妊娠・出産にリスクのある夫婦の抑うつに関する縦断研究. 平成25年文部科学省科学研究費基盤研究報告書. 2013.
- 7) Ramchandani PG, Psychogiou L, Vlachos H, et al. Paternal depression : an examination of its links with father, child and family functioning in the postnatal period. Depression and Anxiety 2011 ; 28 : 471-477.
- 8) Wilson S, Durbin CE. Effects of paternal depression on fathers' parenting behaviors : A meta-analytic review. Clinical Psychology Review 2010 ; 30 : 167-180.
- 9) Lee SJ, Taylor CA, Bellamy JL. Paternal depression and risk for child neglect in father-involved families of young children. Child Abuse & Neglect 2012 ; 36 : 461-469.
- 10) Sullivan PF, Neale MC, Kendler KS. Genetic epidemiology of major depression : review and meta-analysis. American Journal of Psychiatry 2000 ; 157 : 1552-1562.
- 11) Cummings EM, Davies PT, Campbell SB. Developmental psychopathology and family process. Theory, research, and clinical implications. New York: The Guilford Press, 2000.
- 12) Belsky J. The determinants of parenting : A process model. Child Development 1984 ; 55 : 83-96.
- 13) 神谷哲司. 乳児の泣き声に対する父親の認知. 発達心理学研究 2002 ; 13 : 284-294.
- 14) 森下葉子. 父親になることによる発達とそれに関わる要因. 発達心理学研究 2006 ; 17 : 182-192.
- 15) 麻生典子, 岩立志津夫. 母親の抑うつと育児ストレスが乳児へのタッチに及ぼす影響 : 子どもの遊び, 泣き, 授乳, 寝かしつけ場面に注目して. 日本女子大学大学院人間社会研究科紀要 2015 ; 21 : 49-59.
- 16) Murray L, Fiori - Cowley A, Hooper R, et al. The impact of postnatal depression and associated adversity on early mother - infant interactions and later infant outcome. Child Development 1996 ; 67 : 2512-2526.
- 17) Nolen-Hoeksema S, Wolfson A, Mumme D, et al. Helplessness in children of depressed and non-depressed mothers. Developmental Psychology 1995 ; 31 : 377-387.
- 18) Lewis C, Lamb ME. Fathers' influences on children's development : The evidence from two-parent families. European Journal of Psychology of Education 2003 ; 18 : 211-228.
- 19) Simons RL, Lorenz FO, Wu CI, et al. Social network and marital support as mediators and moderators of the impact of stress and depression on parental behavior. Developmental Psychology 1993 ; 29 : 368-381.
- 20) Jacob T, Johnson SL. Sequential interactions in the

- parent-child communications of depressed fathers and depressed mothers. *Journal of Family Psychology* 2001 ; 15 : 38-52.
- 21) Benazon NR, Coyne JC. Living with a depressed spouse. *Journal of Family Psychology* 2000 ; 14 : 71-79.
- 22) McDevitt SC, Carey WB. The measurement of temperament in 3-7 year old children. *Journal of Child Psychology and Psychiatry* 1978 ; 19 : 245-253.
- 23) 佐藤俊昭, 古田倭文男. BEHAVIORAL STYLE QUESTIONNAIRE (1982) 日本語版, 東北大学, 1975.
- 24) Goodman R. The Strengths and Difficulties Questionnaire : a research note. *Journal of Child Psychology and Psychiatry* 1997 ; 38 : 581-586.
- 25) Sugawara M, Sakai A, Sugiura T, et al. SDQ : The Strengths and Difficulties Questionnaire. 2006. <http://www.sdqinfo.com/>
- 26) Kessler RC, Andrews G, Colpe LJ, et al. Short screening scales to monitor population prevalences and trends in non-specific psychological distress. *Psychological Medicine* 2002 ; 32 : 959-976.
- 27) Furukawa TA, Kawakami N, Saitoh M, et al. The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. *International Journal of Methods in Psychiatric Research* 2008 ; 17 : 152-158.
- 28) 古川壽亮, 大野 裕, 宇田英典, 他. 一般人口中の精神疾患の簡便なスクリーニングに関する研究. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (厚生労働科学特別研究事業) 心の健康問題と対策基盤の実態に関する研究協力報告書, 2002.
- 29) Rust J, Bennun I, Crowe M, et al. The Golombok Rust inventory of marital state (GRIMS). *Sexual and Marital Therapy* 1986 ; 1 : 55-60.
- 30) Pianta RC. *Child-Parent Relationship Scale (CPRS)*. Charlottesville, VA : University of Virginia, 1992.
- 31) Driscoll K, Pianta, RC. Mothers' and fathers' perceptions of conflict and closeness in parent-child relationships during early childhood. *Journal of Early Childhood and Infant Psychology* 2011 ; 7 : 1-24.
- 32) Thomas A, Chess S. *Temperament and development*. New York : Brunner-Routledge, 1977.
- 33) Mezulis AH, Hyde JS, Clark R. Father involvement moderates the effect of maternal depression during a child infancy on child behavior problems in kindergarten. *Journal of Family Psychology* 2004 ; 18 : 575-588.
- 34) 菅原ますみ, 八木下暁子, 詫摩紀子, 他. 夫婦関係と児童期の子どもの抑うつ傾向との関連. *教育心理学研究* 2002 ; 50 : 129-140.
- 35) 菅原ますみ, 北村俊則, 戸田まり, 他. 子どもの問題行動の発達 : Externalizing な問題傾向に関する生後 11 年間の縦断研究から. *発達心理学研究* 1999 ; 10 : 32-45.

#### [Summary]

Paternal depression has rarely been investigated in relation to child outcomes in the field of developmental studies. This study explored its association with child socio-emotional development with mediational pathways through intra-familial relationships, father involvement in child rearing, as well as maternal depression. Data drawn from 565 families of preschoolers (age 3~5) were analysed utilizing path analysis. The results indicated paternal depressive symptoms negatively associated with their level of child rearing, the quality of intrafamilial relationships, and positively associated with maternal depressive symptoms. Furthermore, paternal depressive symptoms were associated with child socioemotional difficulties mediated through the quality of father-child relationships and marital relationships. Findings highlighted the importance of consideration of paternal mental health in the family contexts, with particular implication for predictor of paternal involvement in the family functioning and its contribution for their off-springs development.

#### [Key words]

paternal depressive symptoms, paternal involvement, marital relationships, pre-schoolers, socioemotional development